

## 海外安全対策情報（平成30年7月～9月）

### 1 社会・治安情勢

#### (1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ事件発生件数はパキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、引き続きテロ案件は発生しており、警戒を要する。テロの件数等は前期（2018年4月～6月期）に比して11件減少（69件→58件）したものの、総選挙に関連し、選挙集会会場等多くの人が集まる場所でのテロが多発したことにより、死者は187名増加（91名→278名）、負傷者も282名増加（207名→489名）した。。（パキスタン平和研究所調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラード・ウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数犯による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的は軍・治安当局とその関連施設のほか、7月に行われた総選挙に関連し、政党集会や候補者を狙ったテロが相次いだ。特に、7月13日にバロチスタン州クエッタの選挙集会会場で発生した自爆テロにおいては151名が死亡、185名が負傷する大惨事となった。このほか、シーア派等少数派宗教団体に対するテロも数回発生した。また、カシミールのパキスタン・インド管理ライン（LoC）では依然として両軍による局地的な衝突が断続的に発生しており、今期も多数の民間人が死傷するなど、今なおカシミールにおける両国の軍事的な緊張は続いている状況である。

イ 今期、当館管轄地域では、KP州ペシャワールで政党集会を狙った自爆テロが発生したほか、引き続き同州及び旧連邦直轄部族地域（FATA）を中心にテロが発生した。犯行形態の多くは、軍又は治安当局とその関連施設のほか、7月に行われた総選挙に関連し、選挙集会及び同候補者等を主な標的とする自爆、IED及び標的殺人といった手法であった。このほか、ギルギット・バルチスタン地域のディアメル郡において、女子校を中心に14校が放火される事件が発生した。また、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件が前期に続き多く確認された。こうした状況から、治安当局による厳格な対応は確認される一方、都市部においてもテロの脅威は存在し、テロの可能性は排除されないと考えられる。

#### (2) デモの傾向

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による政府機関に対する労働環境改善要求等の抗議活動が行われる傾向にある。今期においては、新興宗教政党TLP（2017年11月にイスラマバードにおいて約20日間座り込みを行った団体）が、オランダ自由党党首により11月に計画されていた預言者ムハン

マドの風刺画コンテストに抗議するため、ラホールからイスラマバードへのデモ行進を開始した。同行進には、100台以上のバス、多数の車及び小型バンが同行進に参加しており、抗議者は何千人にも上り、イスラマバード市内も一時厳戒態勢が敷かれた。同行進は、風刺画コンテストの中止発表を受け、イスラマバード到達前に中止された。このほか、小規模なデモは国内各地で行われた。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 邦人被害事案

なし。

### (2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

### (3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2017年9月にも、ラワルピンディ市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同中国人の元運転手が事件の手引きを行っていたことが判明した。

### (4) 名誉殺人

当地では、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。パキスタンの保守的なイスラム社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。

### (5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、実態は把握できていない。今期は、イスラマバード警察所属の女性警察官が、深夜ラワルピンディの自宅に徒歩で帰宅中、突如何者かに口を塞がれ、近傍の茂みに連れて行かれ強姦される事件が発生した。

### (6) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

### 3 2017年7月から2018年9月までのテロ事件発生状況

7月	43件、死者	86名、負傷者	122名
8月	36件、死者	70名、負傷者	136名
9月	25件、死者	32名、負傷者	74名
10月	31件、死者	59名、負傷者	142名
11月	32件、死者	51名、負傷者	78名
12月	29件、死者	36名、負傷者	132名
2018年			
1月	27件、死者	40名、負傷者	70名
2月	24件、死者	38名、負傷者	46名
3月	25件、死者	37名、負傷者	55名
4月	29件、死者	44名、負傷者	98名
5月	21件、死者	31名、負傷者	75名
6月	19件、死者	16名、負傷者	34名
7月	22件、死者	230名、負傷者	417名
8月	19件、死者	14名、負傷者	51名
9月	17件、死者	34名、負傷者	21名

(出典：パキスタン平和研究所)

### 4 安全を考える上で参考となる事件等 (報道ベース)

- 7月1日、治安部隊は、KP州北ワジリスタン部族郡において、情報に基づいた作戦 (IBO) を実行し、ロケット、起爆装置、短機関銃、重機関銃及び弾薬を含む武器を押収した。
- 7月5日、KP州ペシャワール市ハヤタバード地区において、同州ハイバル部族郡の選挙区から総選挙に立候補していたマルーフ・カーン候補の住宅付近で、IEDが爆発した。負傷者は出なかった。
- 7月7日、KP州バンヌーにおいて、選挙集会の最中にオートバイに仕掛けられたIEDが爆発し、KP州議会選挙立候補者1名を含む7名が負傷した。
- 7月10日、KP州ペシャワール市において、ANPの党集会を狙った自爆テロ攻撃があり、同党最高幹部であるハルーン・ビロール同州議会選挙立候補者を含む21名が死亡し、少なくとも75名が負傷した。
- 7月10日、印側カシミールで抗議活動に従事していたパキスタン人の群衆に対しインド軍が発砲し、1名が死亡、120名以上が負傷した。
- 7月13日、KP州バンヌーにおいて、総選挙に出馬予定の候補者を乗せた車列の近くで、IEDを搭載したバイクが爆発し、4名が死亡、警察官7名を含む39名が負傷した。同候補の乗った車も爆発の影響で損傷したが、同候補は無事だった。

- 7月16日、パンジャブ州アトックの選挙区から総選挙に出馬しているPML-Nの元議会総務大臣が乗った車両が、身元不明犯に発砲された。2発の弾丸が同元大臣の車両に命中したが、本人に被害はなかった。
- 7月17日、KP州カラックの選挙区から総選挙に出馬していたジャベド・イクバル・カタック立候補者の選挙事務所が、棒を持った人々により攻撃を受け、閉鎖された。
- 7月25日、KP州スワビの投票所付近において、対立政党関係者同士が衝突し、発砲により1名が死亡、2名が負傷した。
- 7月25日、パンジャブ州カネワルにおいて、対立政党関係者同士が衝突し1名が死亡した。
- 7月27日、ラワルピンディ警察テロ対策局（CTD）は、パンジャブ州ラワルピンディにおいてTTP戦闘員の潜伏先を急襲し、戦闘員1人を逮捕し、逮捕現場から、爆発物、導火線、起爆装置等を押収した。
- 7月31日、KP州デラ・イスマイル・カーンにおいて、銃撃犯が警察官2名を攻撃し、同2名は殉職した。
- 8月2日から4日にかけて、ギルギット・バルチスタンのディアメル地区において、女子校を中心に14校が放火等の攻撃を受ける事件が発生した。人的被害はなかった。
- 8月8日、KP州デラ・イスマイル・カーンにおいて、シーク派住民を標的とした銃撃テロが3件の連続発生し、3名が死亡した。
- 8月11日、ギルギット・バルチスタンのカルガハ・ヌラー地区の警備検問所において、8～10人のテロリストグループが、同検問所に向け発砲を開始し、警察部隊と銃撃戦となり、警察官が3名死亡、2名が負傷、攻撃したテロリスト2名が死亡、その他複数人が負傷した。
- 8月11日、治安当局は、パンジャブ州サヒワルの石炭火力発電所の検問所において、鞆の中に銃、ピストル、弾薬等の武器を所持していた中国人技術者8名を逮捕した。
- 8月11日、KP州スワビにおいて、自動三輪車に乗った男が警察官を見て逃亡した。同人が置き去りにした自動三輪車から、小銃、弾薬、ピストル等が見つかった。
- 8月19日、ギルギット・バルチスタンのギゼル地区において、ミリタント12名により警察の仮設検問所が放火された。ミリタントらは、同検問所に配置されていた治安要員に対し発砲し、弾薬を強奪して逃走した。
- 8月20日、治安当局は、パンジャブ州ムルタンにおいて、IS所属のテロリスト2名を逮捕し、大量の爆発物、手榴弾を含む武器及びテロ資金に用いられていた現金を押収した。
- 8月26日、警察は、ギルギット・バルチスタンのギゼル地区において、女子学校及び女子大学への攻撃を計画していたとして、ミリタント6名を逮捕した。

- 8月23日、パンジャブ州ファイサラバード市のアフマディ教団の礼拝所において、同教徒とイスラム教徒間の口論が原因で暴力沙汰に発展し、18名が負傷した。
- 8月25日、CTDは、パンジャブ州バツカルにおいて、テロリスト2名を逮捕し、兵器、弾薬、手榴弾及び自爆ベストを押収した。
- 8月29日、当地新興宗教政党TLPは、オランダ自由党党首により11月に計画されていた預言者ムハンマドの風刺画コンテストに抗議するため、ラホールのダータ・ダルバールからイスラマバードへのデモ行進を行った。デモ隊は数千人に上り、イスラマバード市内も一時厳戒態勢となったが、風刺画コンテストの中止発表を受けデモは途中で中止された。
- 9月1日、治安当局は、KP州北ワジリスタン部族郡において、IBOを行ない、地下に隠されていたIED、ロケット・ランチャー、手榴弾及び弾薬等を押収した。
- 9月2日、国家汚職取締局(NAB)は、パンジャブ州ムルタンにおいて、テロリスト3名を逮捕し、手榴弾や爆発物等を押収した。3名は、同月6日の防衛記念日に合わせてテロを計画していたとみられている。
- 9月17日、KP州北ワジリスタン部族郡において、地雷が爆発し、2名が負傷した。
- 9月24日、KP州北ワジリスタン部族郡の検問所付近の道路において爆発が発生し、治安部隊が1名死亡し、1名が負傷した。
- 9月28日、CTDは、ラシュカレ・ジャングビ(L e J)に所属しているとみられるミリタント3名を逮捕し、所持品から大量の爆発物及び武器等を押収した。またCTDは、TTP所属テロリスト3名も逮捕した。
- 9月30日、KP州チトラルにおいて、政府運営の小学校の教室がIEDの爆発により部分的に損傷した。死傷者はなかった。また、警察当局が同小学校付近を通過した際、別のIEDが爆発したが、ルートを変更したため一行は無事だった。

## 5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が断続的に発生しており、誘拐事件発生に関する報道は比較的多い。誘拐・脅迫事件の背景としては、過激派又は武装組織による誘拐事件を利用した政府等への要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、単に一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

## 6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していない。し

かしながら、2017年5月にクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生していることから、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられたり、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)